

放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 26年 2月 12日 [水] 18:00～19:30
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 2 階 あまみエフエム会議室 にて
- 3 出席委員 委員総数 7 名 出席委員数 7 名 欠席委員数 0 名

出席委員の氏名

深田 剛／中村 修／岩崎 勇登／重田 朱美／濱田 洋一郎／山田 梨香／柳 ちおり

放送事業者側出席者名

麓 憲吾／丸田 泰史／上野 紋／渡 陽子／中田 健治／手蓑 慎之祐／宮田 愛

4 議題

審議(「あの日、あの頃～アメリカ軍制下・行政分離期の奄美を語る～」について)

5 議事の概要

- (1) 審議(「あの日、あの頃～アメリカ軍制下・行政分離期の奄美を語る～」について)
- (2) 番組審議委員任期終了にともない、各委員から、一年を通しての意見・感想など

6 審議内容

- (1) 番組内容の審議(「あの日、あの頃～アメリカ軍制下・行政分離期の奄美を語る～」)

深田委員長

みなさんお疲れ様です。今回、最後の審議会になります。第42回のあまみエフエムの放送番組審議会を開催したいと思います。

今回の議題は「あの日、あの頃～アメリカ軍制下・行政分離期の奄美を語る～」についてということで、奄美の寅さんこと花井さん、花井恒三さん、財部めぐみさんがパーソナリティをつとめる番組です。

奄美にアメリカ軍制下の時代があったということ、そしてその時代を過ごした先輩方がどのような思いで、どのように生活されていたかを伝えたいと、制作している番組です。

本放送が毎月の第四日曜日、13時から60分。そして再放送が翌月曜日の23時、翌火曜日の21時、翌水曜の16時ということで、再放送が3回あるということですね。

目的「奄美群島がアメリカ軍政下にあった頃の思い出や体験を次の世代に伝える」。

出演が花井恒三さん、財部めぐみさん、語り部としての、ゲスト。構成は、「生き立ち～終戦までのこと」、「行政分離期の思い出、当時の楽しみ、街の様子など」、「次世代に伝えたいこと」。毎回こういった形の 3 構成になっています。皆さんより意見がほしいポイントとしては、

1. 語り部とパーソナリティ 2 人の掛け合いはわかりやすいか
2. 1 時間という時間と内容のバランスはどうか
3. 人選(復帰運動関係者だけでなく、当時を生きた一般市民も取り上げたい)
4. その他、気づいた点、改善案など

ということで聴きたいと思います。語り部は山田栄さん、鹿児島から奄美への密航というテーマで話を聴きました。中村委員からお願いします。

中村副委員長

こんばんは。60 分間、(この番組を)最初から最後まで聞いたのは初めてでした。すごくいい放送でした。ゲストが毎回毎回違うのですが、今回のゲストもちょうど終戦のころ、鹿児島での話、島での話、いろいろ話しているなかで、その状況が目には浮かぶようですごくよかったです。鹿児島での汽車の話、屋鈍(瀬戸内町の地名)に帰ってくる密航の話、思い浮かべるともなだ(方言訳:涙)が浮かぶようで、結構感動しながら聞きました。自分ももっと昔の島のことを知っているつもりだったのだけど、オリエンタル放送ですか、拝み山から放送していたとか、昔のスピードグラフィックカメラを持ち込んでカメラ屋さんをしたとか、なち丸、黒潮丸という単語が出たときには、ぞくぞくするぐらいで、次から次へとぼろぼろ出てくるなど。自分は島のこと全然知らなかったやーと、サラサラしながら(方言訳:ドキドキハラハラしながら)聞いていました、バタバタしながら(サンプル CD を)聞いた割には、ぞくぞくしてびっくりしました。

当時の生なましい話で感動したけれども、話している島の状況が、おそらくその当時は経済的には恵まれておらず、食べるのに必死だったんだろうけれど、このゲストの話しぶりから、おそらくこの方は、元気だったんだろうなど、そして自分のことだけでなく、人のことも気づかっていたんだろうなど、バイタリティあふれていた状況が、ひしひしと伝わってきました。最後の最後におっしゃったのが、「今の方々には恵まれすぎていて、アイデアとか工夫が足りないんじゃない?」と、ずばりとつかれたときには、まさにその通りだなと思いました。復帰 60 周年が経って、私達もその当時のこと全く知らずに、恵まれている状況で、今は情報がいっぱいあるし、昔より進んでいるという気持ちはあると思うけれども、昔のほうがわずかな情報のなかで助け合ったり、いろんな知恵を出し合って工夫していたのかなど。それから、企業は社会への奉仕があってこそとおっしゃっていて、今の若い人たちには、いや、若い人たちに限らず、事業をしている方の中で、今どれだけ、社会奉仕の為にがんばっているという方がいるだろうと、思い知らされた番組でした。

深田委員長

ありがとうございます。中村さん、この一年間やってきた中で、一番感銘をうけた様子ですね。

中村副委員長

そうですね。良かったです。それと、良い意見だけでなく、「あれ?」と思ったのは、パーソナリティの女性のかたが、その方のなかで、回の流れ、プログラムがあるのだろうけれど、その通りにもって行きたいばかりに、ゲストの方がせっかくお話ししているのにさえぎるようにして次の話に行こうとしていたのが、もったいないと思いました。まだ話しているのかぶる部分がちょこちょこあって、脱線してもいいから、そのままもっとしゃべってもらえればいいのにと、もったいなく感じました。

山田委員

お疲れ様です。ラジオでも聞いたのですが、私の意見は少し違って、ひとりで話をするることについての、いいところと、もったいないところがでているのかなと思いました。ひとりだと、自分の記憶の中でしか話せないというか、家族だったり、昔話をよく一緒にしていた方がもう 1 人、となりにいたら「こういうことがあったね、ああいうこともあったね」と引き出しがでたのかなと。一時間しかない中で、これだけいろんな情報を持っているということは、話の引き出しをもっと持っているはずなのに、聞かれる質問に対して、考えて答えることが同じ言葉を繰り返すことがあって、ここにもう 1 人いたりすると、そこから話が膨らんで、もっとおもしろい話が聞けたのではないかなと思えました。

1つの案として、例えば同じ時代の、場所は違えど同じような環境にいた人などを、1人ではなくて、複数のゲストで同じ時代の同窓会みたいにやってみるのも、ちょっとおもしろいのかなと。

違う回のお父さんが方言の本を書いているという方は、あの方はしゃべりなれていて、インタビューを受けなれているなど思いました。60分を無駄なく、内容豊富に作っているなど思ったので、そういう方なら、ひとりでもいいのかなと思ったけれど、一般の方の貴重な体験を聴きたいということであれば、一般の方が引き出しをもっと出せるような環境をもうひと工夫すれば、もっといい話がきけるのではないかと思いました。内容的にはすごく楽しかったというか、知らない世界、自分の想像できない世界なので、父や母とサンプルのCDを車の中で聴きながら、祖父母の時代はこうだったんだとか、親の話を聴きながら情報をもらいつつ、昔を見る勉強でした。

深田委員長

山田委員、「聴きだす」ことについて、「食べ物」とか、キーワードで聴きだす、などきめごとのことではなく、ヒト的に、うまく引き出してくれる人がいたらいいということですか？

山田委員

山田さん(ゲストの山田サカエさん)の話だったら、旦那さんが食べ物を配っていて、お姉さんのところにいくところまで出会う…とか、そういう出会いの話などを、自分の娘や孫にしていると思うんですね。なので、そういう昔話を聞いていた家族がひとり横にいたら、「おばあちゃん、こんなこともあったがね」とか、そういう言葉からキーワードがぱっと出てくるのかな、と。例えば私が都会に行けば、向こうの言葉になるし、そこにいても島から電話がくると方言になるし。その環境にいる人と一緒にいると、自分の自然体がでると思うんですよ。ちょっと前の前山くんの番組のときがそうでしたが、その人の引き出しを出しやすいのは、ここ(スタジオ)に来てもらってしゃべるといよりは、その人のお家に足を運ぶことによって、心を開きやすい。相手がリラックスできる環境を作るといのが、一番話を聴きやすい工夫なのかなって思いました。

深田委員長

ありがとうございます。すごくいいヒントだと思います。では、柳委員お願いします。

柳委員

こんばんは。今回の審議対象になっている番組なのですが、私のお気に入りの番組の一つです。なかなかこの、アメリカ軍政下の時代の話聞く機会がないので、私がアメリカ軍政下のことについてはじめて聞いたのはラジオだったんですね。それでそのことに興味をもって、もっと知りたいと思ったので、本屋にいったら「軍政下奄美の密貿易」という本を買って読んだりもしました。私が(軍政下時代のことを)初めて聞いたというのがあるので、私達の代も知らない人がいるかもしれないし、さらに私達より下の代の人たち、子供たちにも知ってもらうために、もっと話を聞ける場を設けることが必要なのかなと思いました。今のうちに、体験した人たちの話など、たくさんの資料を残していかなければいけないな、と思ったところです。

深田委員長

今まで伝えてくれたものを、次の世代のみなさんにも知っていただけるようなものに作り変えて、準備しておく、という次のステップを考えることも必要かもしれないですね。ありがとうございます。重田委員お願いします。

重田委員

最後の回に出席できたことをうれしく思います。

CDを聞いて意見をまとめてきたのですが、先にお話をされた3名の方のご意見を聞いて、また新たな意見がでてきたので、それも交えながら意見を述べたいと思います。

山田さんは、いろいろなメディア関係などから取材を受けているはずなので、お話が上手な方だなと思いました。今回、復帰の日(12月25日)の前の回とのことで、ラジオを起こした方、その当時のお話もあったりして、時期的、タイミング的にも、番組を制作するディ(あまみエフエム)としてはその回にもってこいな内容なのかなと思いました。審議のポイントについて、「語り部とパーソナリティ2人の掛け合いはわかりやすいか」ということでいえば、2008年から始まってやっている(番組)とのことで、花井さんと財部さんの知識も豊富だと思うし、長く番組をされているでしょうから、1時間という決まった枠のなかで持つていくには、考えながら質問もされているだろうし、収めるということは上手だなと単純に思いました。編集もされているということでしたが、編集は全くわかりませんでした。

ここで質問なのですが、打合せについて案内文書では30~40分ぐらい、ということでしたが、直前にされているのですか？

一放送局 上野

ここ一年は、来ていただいて、初めましての方も、何度かお会いになっている方も、その場で、今日はどういう話を？ということ、思い出の品は何ですか？という打合せを始めて、組み立てをして、テーマをざっと見て、ということにしています。事前の打合せをもっと前の段階で、番組の担当者がしていたこともあるけれども、2人と語り部の方の関係性、緊張している同士ならばその緊張している同士のなかで、もうちょっと引き出せるようになりたいという意図はあったのですが、ただ、それが結果として温度差になっているところもあるなど、今回だけではなく、これまで何回かの中でもあり、思っています。

重田委員

ゲストに呼ぶ方の経験されたお話などは、パーソナリティの方が、打合せのときにこの人だったら、こういう話にしようとかこういう流れにしようとか、その段階で決めるのですか？

一放送局 上野

大体そうです。あとは相手によって、「だったらこの話を聞いたほうが面白いよ」ということもあります。

重田委員

この番組は、私は内容が濃い番組だなと思うので、ましてや1時間というがっつりとした番組なので、MCの方も話の持つて行き方とか、事前にすごく打合せなどした上で作るって、作られる側は大変なのではないかなと思うので、今お話が聞けてよかったです。それでもこれだけの内容が聞けたので、私の回りにたくさんいる、島の歴史に興味を持っている同年代(30代前半)も、これを聞いてすごく勉強になる、ためになる番組だなと思います。再放送の回数も、いろいろな時間帯があり、いろんな人が聞けるので、いいと思います。

1時間の内容とかバランスですが、内容が濃い番組なので、私は単純にこれくらい使っているのではないかと思うのです。以前、自分があるテレビ会社に1年間ちょっといたことを思い出しましたが、1時間の収録で番組を作るときは、進行が1人、ゲストが数人とかだったのですが、**ディの場合、ゲストは1人ではないですか。MCが2人いたので、質問が2人から出るので話も広がると思いますが、話す方が1人だと話の内容が偏るし、ゲストの**

方も1時間は大きいと思うので、(ゲストが)もう1人か数人いてもいいのではないのでしょうか。その方が番組としても内容も、またいろんな方向に転がっていったり、段取りの段階で拾える話題とか、ポイントとかも出てくるのではないかなと思ったり。今回、山田さんはお話を聞いているので、お話が止まらない感じで個人的には面白かったのですが。山田委員の引き出しについての意見を聞いて、それを思いました。

「人選」について、市町村単位で経験されていることも若干違うのではないかなと思うので、与論ご出身の方の出された、失語 400 年(奄美自立論?)という本を数年前に呼んだことがあって、復帰のその当時に、復帰ということに関して、そこまで「戻りたい」という気持ちはなかったと書いてあったんですよ。ただ、日本に復帰すればご飯が食べられるかな、という、ただそれだけの、単純な、そういう思いがあったということ。一部の方では、あまり強く「私達は日本人だ」とか、そういうことではなくて、意識のレベルに差があったということを読んだことがあって、いろんな地域の方に聞くのもいいのかなと思いました。

また、(ゲストの方の)人選をするときに、年配の方やいろんな方を知っているとは思いますが、私のような 30 代前半の人に、身内で(話を聞ける方が誰か)いないか聞くのもいいと思う。自分のじいちゃんばあちゃんや、おじおばが出たと思えば、ラジオにも意識が向くというか、若い方も聞ききっかけになるのではと思いました。

深田委員長

ありがとうございます。先ほどの山田委員と同じで、重田委員も「聴きだす」ための、どういう方法が一番多くのキーワードを引き出せるかということに注目している、そういう視点があったと思います。濱田委員お願いします。

濱田委員

お疲れ様です。私も今回、きっちり1時間聞いたのは初めてで、オンエアはたまたま車に乗っていたら聞く、というぐらいだったので、この(サンプル CD の)1本をしっかりと聞いたというだけで。そんな中で発言をさせていただきます。語り部とパーソナリティの掛け合いについて、花井恒三さんの昔を知っているものだから、おしゃべりなところしか知らないわけよ。聴き上手になったなあと思いました。(一同笑)

財部さんなり恒三兄も、知性のある方ですから、それがきっちり出ていて、落ち着いて聞けるなど。それと、バックの音楽も、昔の音楽だったりとか、歌の話だったりマッチしているな、落ち着いて聞けるな、という感じでした。恒三兄は基本、最初しゃべっているけれど、後半からしっかり聞いて、間違った商店の名前などを、少しわかりやすく修正するところとか、さすがだなと。

今回の場合は、山田サカエさんの逆密航みたいな話にテーマを絞っていて、そこに本人の結婚だったり子供がうまれたり、その時代背景もあったりして、すごくドラマチックなストーリーなので、人生を語られているということで、(時間が)足りないぐらいなのかなとも思いました。山田委員が言ったように、同じような年代の人がいればいいのかもしれないけれども、逆にラジオをきいている人たちが、同年代の方で、ラジオの前で納得して「そうさそうだ」と思っていたらそれもアリなのかもしれないなど。

山田委員

2回目がほしいな。最初は、山田さんだけ出て、その目次の年には、山田さんプラスα、みたいな。そういうのがいいなと。

濱田委員

こういう番組は、それぞれの世代世代が、どういう風にして聞いているかということで、わんなんか(方言訳:自

分など)も去年50になったのだけれども、奄美が復帰した10年後に生まれているわけで。普段から反戦平和だったり護憲だったりという活動なども少しやっているところではあるのだけれども、改めて奄美の復帰、終戦・・・敗戦という人もいますが、それから8年間、その後講和条約だったりいろんなことがあって、結局沖縄は後だったり。小笠原は？とか。なんていうのかな、**学習になりました。もう一遍調べ直すみたい。年表確認したり。やれダレス声明がいつだったかとかいうのを、復習したり。そういうのを、年代年代の人たちが自分で聴きながらキーワードを見つけて、その人の人生ストーリーがあった上で、歴史背景をもう一度確認をしながら、難しい話かもしれないけれども、結局復帰しなければならなかったあの戦争はいったいなんだったのか、というのを少し掘り下げて考えたりしてみるのもいいのかなとかいう気がして。**

今年に入ったら70回を超えるのでしょから。こういうのは、**ずっと、語り継ぐとか、記録としてあまみエフェムの大きな財産になるのではないのかな、という気がしますよね。**恒三兄は、本人が「番組ナビゲーター」といっているようにすごくまい具合にやっているなという気がして、まとめたものなんかを作っていたり、それを1つの本にしたり。カテゴリー分けみたいなのによれば、そういう作業なんかもお願いすれば、喜んでやってくれるのではないのでしょうか？(笑)財産になるし、ずっと続けていくべき番組かなと思いました。

人選に関しては、商売を生業にしているところだったり、やんご(繁華街の呼び名)生誕100年の時に仕事で関わっていて知っているのですが、市場の戦後の状況を知っている人もまだ残っているので、そういうところで、どういう大変さだったのかとか、ぜひそういう人たちにも。それこそ、山田委員の言っていたようにグループなどでも、1時間あつという間だと思います。

今回の放送について言えば、山田サカエさんご自身、加計呂間慕情の作詞をされていたり、で、米三さん(山田サカエさんの夫 山田米三さん)もすごい人じゃや〜、武下和平(シマ唄者)を見出した人みたいに、こないだセントラル楽器のホームページで確認したのですが。そういうエピソードがあって、少し音楽が入ってきたりとか、打合せ済だったかもしれないけれどもまい具合にはまって、1時間、すごく充実した内容で、多少は、中村委員の言っていたように、財部さんのかぶっているところが気にはなりましたが。そんな感じです。

深田委員長

はい、ありがとうございます。「パーソナリティー」、引き出す人材というのも確かに大事ですね、若い方2人では多分、この番組成り立たないですもんね。

濱田委員

やっぱり、88歳の山田サカエさんの、アイデア、知恵、工夫、奉仕、試行錯誤しながら、っていうのが。あれがきましたね。月並みだけど温故知新というか、古きをたずね新しきを知る。さかのぼって行って自分なんかでやっていたことが結局、新しいことだったりとか。あるものをもっと付加させたい、というようなことになるのかな。そういう意味では、非常に勉強になりました。

山田委員

ちょうど88歳になる、同級生のおじいちゃんとおばあちゃんが近くにいるんです。そのおばあちゃんが、ゲートボールをしていて、そのメンバーに1人ずつ、「この年になって人生の楽しみをありがとうございます」って、お歳暮と直筆で手紙を書いて毎回送ってくるんです。88とか、この時代の人たちは義理人情の精神をすごく大切にするというか。私達に対しては、「ありがとう、ありがとう」ってするけれども、同級生のおじいちゃんとかに対してはちよつと強かったり(一同笑)。複数いれば色が出て面白いのかな。

濱田委員

その時代だからこそ思いやりがある。わんの父ちゃん母ちゃんなんかは 70 代なんだけど、小言っぽくなってしまふ。けれども、もっと少し上の世代であれば「なるほどな」と思えるという・・・。

中村副委員長

最後に山田さんが、「今の若いもんは・・・」という流れは、こちらでつくった流れなの？それとも自発的に？
(一放送局 上野 基本的にはあのあたりはなんにもしていません。)

昔の話で、掘り下げていけないんだけど構成上として、最後の締めみたいな話をするわけじゃがね。これはこうあって、「オチ」っていうのかな、今からそれをどう生かそうか、ということなんだけども。花井さんがやったわけではなく自分でやったわけね。すごいよね。

濱田委員

まったく無から始まった、ゼロからはじめて、米三さんというパートナーの方がすごいアイデアマンだったし。オリエンタル放送やってたとか、機材とかどうしたのかい。で、米三さんが憲兵さんだったことでわんが思ったのは、笑い話なんだけど、憲兵さんとかは、乾パン、水あめ、金平糖とかを、人にくれるほどいつも持ち歩いとったのかい？とか思うと、そこら辺も調べたい、何かに書いていないかい？とか思ったり。

重田委員

山田さんの番組を聴きながら思い出した番組があつて、私は、年配者が若いものに言うのを聞くのが好きなんですけど、山田薫うじが、ラジオで、朝の出勤の時間帯で言っている番組があるじゃないですか。

一放送局 「きゅうぬゆしぐとぅ(あまみエフエムのコーナー、名称意味:今日の格言)」ですね。

それが好きで、なるだけ車に乗っていたいんですよ。ほんとうは職場に着いているんですけど。飛行機と船の案内のあと後に、ボリュームを大きくして。名言というか、教える言葉、年配の方々にはわかりやすく、やさしく言ってくださるから、とつても聴きやすくて、自分のなかで噛み砕いて、よし、今日もがんばろうって、自分の中の人生の教訓にして聞いているのだけど。山田サカエさんの、お最後の言葉もよかったですね。

深田委員長

昔の人のいう言葉って 意味があるし、漢字でもなんでも、語源をたどるとなるほどなって思ったり。本当に温故知新っていいですけどもね。

それでは、最後になります。一通り、皆さんの気になったキーワードも抜き出して発表しながらお話したいと思います。

この番組、時間がなくてのクオリティがすばらしいと思いました。「時間がなくて」というのはどういう意味かと言うと、「人材」ですね。どんどん年を取って行って、皆さんから話を聞くチャンスが少なくなっている中で、その裏には、ひと探しというか、(その時代のことを)知っているけれど、ラジオに出てしゃべるということに躊躇している方がたくさんいると思います。普通に聞けばお話を引き出せるのに、スタジオで、というところで苦労されていると思います。戦争という難しい議題に積極的に取り組んでいるという、ディの姿勢を評価したいなと思いました。このような話を、あとどのぐらいできる方がいらっしゃるのかというのを、ディのほうでは把握というか、結構ピックアップされているのでしょうか。

ー放送局 上野

花井さんが逐一更新して、今話を聞ける方のリストとして60人ぐらいピックアップされていて、そのリストの中にいらっしゃらなくても、たまたま知り合いになった方とか、夕方フレンドなど違う番組に出てくれた方に改めてお願いしたり、さまざまですが、ピックアップした方にはある程度出させていただいています。

深田委員長

聴きながら、この番組が今後どうなっていくのか、ということのを思いました。5年後、10年後どうなっているのか。どこかで必ず終わりが来るのか、何かしらの形でずっと続いていくことになるのか。ある意味聴きながら寂しさというか、必ず終わりが来る番組というか、他の番組はパーソナリティなどが元気であれば、ほぼずっと続くと思うのですが。この番組については必ずどこかで終わりが来るのかなと、思いました。

そして、中村委員からの、「企業の社会奉仕」というキーワードがとても良いなど。それを聞いて思ったのですが「昔のことを聴きたい」という欲求が若い人には結構あるなど。自分も(出身が)須野集落ですけど昔の話をきくとむる(方言訳:すごく)おもしろい話がたくさんあるんですよ。今も、家を建てたら新築祝いとかしますけれども、昔は車を買ったり、免許とつてもお祝いしていたらしいですよ。用安(奄美市の地名)で聞いた話ですが、お祝いに出席して、何の祝いがわからんで座って三献(伝統のお祝い食、吸い物、刺身など)もらって、何のお祝いか隣の人に聞くと「冷蔵庫を買ったお祝い」、って。(一同笑)そういう話を行くと、エピソードとか、昔の話を聴きたい欲求があるなど。この話、みんなの前でよくするんです。面白くて。

そして山田委員の「聴きだす方法」。参加している方々から、もっと自然体で、もっと深く聴きだすためには、もしかしたら島唄ではないですけど「合の手」の方がいることでうまく聞き出せるのではないかな。

柳委員より、残したものの残されたもの、そのデータについての引継ぎをどうするか、というキーワード、終わりがある中での「続きの第二章」みたいなものが多分必要になってくるのではないのでしょうか。

重田委員ですね。同じく聴きだす方法。重田委員はまた別のアプローチ、「人」ですね。いろんな人を入れることによって もっといろんなことが聞き出せるのではないかな。面白い方法だと思いました。

濱田委員からは、「人」のキーワードがたくさん。花井さんの個性であるとか。いろんな方々の、「人」というキーワードが。そういう意味では人選というのは本当に大事。さきほどさすがだなと思ったのですが、花井さんが60人のリストを持っていて、次々そういう人にアプローチされているのは、ある意味安心もしたし、さすがだな、すごいなと思いました。私自身は、先ほど冒頭でも言いましたが、終わりのところが寂しいなと思いつつ、非常に興味深くて、今後も聞いていくんだろうな、という感想をもちました。以上です。

ではひととおり審議委員の話を終えましたが、ディの方から質問とか担当の方からでもいいのですが、もう少しこちらから聞きたいとかありますか？

ー放送局 上野

今回の山田さんは、この番組に4年ぐらいまえに一度出て頂いた方で、復帰運動に絡んだ人のなかでピックアップされる方々のひとりです。一般の方にお話をなかなか聞きづらかったという当時の制作チームの考え方もあるのですが、普通の人達で、例えば何かの活動に凄く燃えていたとか、学生時代に演劇を凄くやっていたとか、では「無い」方々の、自分たちの青年団とか、自分たちの普通の生活の話を、山田さんからご意見もいただきましたが、1時間の中で消化していいものだろうか懸念がありながら、それでもやってはいるのですが、その辺りは委員の皆さんはどんな風に感じられますか？

山田委員

例えば人前で話すのが苦手、知識や情報はもっているけれど、それをラジオで話すとか、人前で話すとか抵抗を感じている人が沢山いると思うのですね。そこで、上手に話せる山田さんの知り合いなどをもう1人、連れてきてもらう。財部さんと花井さんはすぐ引き出すのが上手だけれども、スタートが1人だと、面識が無い人を受け入れるのに抵抗があるなかで、クッションになってもらう友達、出たことがあって、上手にしゃべれる、その人と面識があって聞き役になる、そんな人がいれば。その人と違う世界の昔話を聞くとまた幅がひろがったりするのかな。同じ人が何回も出てくる。でも番組を残して欲しいから、沢山話を聞きたい。長く続けるには、60人からプラス α をもらっていく、その人から繋いでいく。八月踊りの時期に思うのが、私たちが一年聞いて覚える数と、80を越えたおばあちゃんが一年で忘れて行く歌詞の数、スピードが全然ちがうですよ。忘れていく数の方が遙かに多い。去年前歌っていた歌詞が出てこない。一年でその重さを感じる度に、その人達の情報を、ラジオとして使えなくても、聞くチャンスを沢山つくって、情報を得ることもありなのかなと思いました。

一放送局 麓

上野からもありましたが、肩書があったり、活動されていた方は当時すごく意識的にうごかれた動かされた方なので、その方々が実際まだご存命ということで、それを残すという作業に一番、今価値があるなかで、そこで意識的に動かされた方々の環境において、そこで暮らした方々の意見もききたいところなのですが、山田委員がおっしゃるように、なかなか、伝え下手という中で、自分たちが出向いて、集落の方だったり聞き出すこと、そっちの意見の方が広く「そうだった、そうだった」と共感をうむ可能性が高いかもしれないなど、自分たちも感じているところなのですが、取材体制ができるようにしていきたいと思っています。

自分たちが開局して、歴史モノを扱うときに、一番大きなのが復帰だということでやってみたのですが、いつも島の過去のたどりが、「復帰から」みたいなことになっているのですが、実は、濱田委員も言っていました、そこに突入した戦争が何だったのか、実は戦争前の島のくらしがどうだったのか、今実は、学ぶべきところは平和だった戦争以前の暮らしの中に、ひょっとしたらなにか知恵があるような気がして。戦争と復帰というのはとてもとてもイレギュラーな時代だったので、その出来事を残すことは大事なのですが、意外と、それ以外にももっと昔に学ぶものがあつた気がしますので、そういった話も、うちの歴史を扱う番組の中でいろいろと反映させていきたいと思っています。自分たちのネットワークだけではなかなか人と知り合えないので、知っている方々がいらっしやったらぜひご紹介ください。

深田委員長

ありがとうございます。ひとつ質問で、ぼくも今回、単発で聞いているので流れを把握できていないのですが、今まで東京の方々とか、そういった方々にインタビューとかしたことは過去にありますか？

一放送局 上野

東京に今住んでいらして、島に帰ってきた時などに、先ほどお話の出た恵原義之さんとかは、お父さんがその(復帰を経験された)世代だけれども、ということでお話を聞いたり、島岡稔さんに、少年使節団の話などをしていただくとか、というのは、帰ってきているというお話を、それこそ花井さんからいただいて、「この人がいるので、お話を聞いてみよう」という流れでやったり、直接アプローチが取れたら、これからもしていきたいです。

深田委員長

今東京の件を聞いたのは、島でも復帰運動という形でみんなで盛り上がったのですが、その裏で、東京にい

る奄美出身者もすごく活躍をされていて、東京ではどういう動きをしていたか、ということ、実は東京の方が活発に動いてたよというのを、わかってほしい、知ってほしいということで、漫画の冊子が作られていたので。

そういったことを書いているということは、誰かが伝えているということで、もし東京のそういった方とうまくコネクションが付けば、そういった方から復帰を聞いてみるのもおもしろいかなと思って、お話をしました。

(2) 番組審議委員任期終了にともない、各委員から、一年を通しての意見・感想など

中村副委員長

今日はおそらく本当は、6時から始めて、7時に終わるつもりが、また長くなっていますが。第一回のときも長くて、2時間ぐらいやったのではないかと思います、このメンバーはどれだけ話すのかと思いました(一同笑)。また今日も長い話が出ていますけれども。いろいろ気持ちの熱い方が多くて、それぞれ個性的な意見がたくさんでて、ディの番組審議委員ということも含めて、自分としては違った業種の方、全然性格の違う人たちとお話ができるのが楽しかったです。ただ、この場に岩崎さんがいないのがとても残念です。いつもポツリと面白い話をしてくれるので(一同笑)。

ディウエイヴも島に認知されてきて、島のもの、みんなのものという感じになってきて、番組的にも昔からあるもの、新しいものと新旧いろいろ織り交ぜて、楽しいなと思っています。そして英会話のオバも早く復帰してほしいと思います。

引き続き公私共に応援しますのでみなさんぜひがんばってください。一年間ありがとうございました。

山田委員

一年間お疲れ様でした。何度か出席できなかったのですが、一年を通して、多分誰よりもラジオを聞いていたと思います。最初お話をもらったときには、私でいいのかなと思っていたのですが、やっぱり一年間聞いてみて思ったのが、お題として渡されている CD を聞くのも大事だけれども、それ以外にも、いろんなジャンルというか、この場合はこういう話だったけど、この人のときはこういう話で、面白かったよね、みたいに、今後も番組審議委員を続けていくのであれば、定期的にラジオが聴ける、柳さんとか私みたいに、年間通じてラジオを聴いている人を何人か選出した方がいいのかなと思いました。今回初めてやって、中村委員とか濱田委員とか、いろんなところで密に関わっている、情報と経験が豊富な方々が一緒にいて、だからこそ私達もいろんな意見がだせたなと思うので、やるんだったら番組のためになって、聞く人たちも楽しめる番組をたくさん作ってもらいたいなと思いました。こういう場をもらって、他のお客さんがこうだね、ああだねっていったのを、「あ、次のときに言おう」って、自分もそう思う意識ができたので、いつも以上にラジオに耳が釘付けの一年間でした。またこれからは違って、楽しみながら聞いていきたいと思っています。一年間、ありがとうございました。

柳委員

はじめ、この話を聞いたときには、何かの間違いではないかと思って断ろうと思ったんですよ、考えてから連絡しますと伝えたのですが。息子が、「やればいいがね」って言ってくれたので、することになりましたが、やってよかったと思います。今までではざらっと聞いていたのですが、審議委員になって、違う聴き方をするようになりました。ここはこうすればいいんじゃないかなとか。なんか、寂しいというか、やっている時は「ああ、明日…」って思いながらでしたが(笑)。またボランティアなどあったら参加したいと思っていますので、声を掛けてください。ありがとうございました。

重田委員

みなさんお疲れ様です。2ヶ月に一回の審議会ということでしたが、一回一回の内容が濃くて、一回目終わったときにどっと疲れがでたのを今でも覚えています。(一同笑)これがあと何回続くんだろうとか思いながら帰りました。実は一回目の後、梨香姉(山田委員)と食事して、さらに1時間ぐらい話したんですよ。もうぐったりして帰りました。(一同笑)

審議委員の皆さんの意見がすごくて、いろんなお仕事されたり経験されたり、みなさんのお話を聴きながら、この中で年齢が一番若いということもあり、不安を抱きながらでしたが、がんばってサンプル CD を聞いていました。制作する側 ディの、1つの番組に対する熱意とか、こうしたい、ああしたいとか、一つの番組を作っているという思いを知ることができたのが嬉しかったです。審議委員になってからラジオの聴き方が変わって、いつもMCの方々の返す言葉を聴いているんですよ。絶対、難しいと思うので。それを毎日、ラジオを付けたら「おはようございます」、って明るいテンションでしゃべっているみなさんの声を聞いて、毎朝すごいなって思いながら、そのあと山田薫さんの番組を聞いています。メディアっていうのは、エネルギーをすごく使うし、時間も曜日も関係ないお仕事なのかなって、審議委員をやったと思いました。今日で終わりますがここで過ごしたこととか、皆さんに聞いた内容とか勉強になりましたので、これも自分に生かして、今後つなげていけたらと、私自身思いました。これからもがんばってください。応援しています。

濱田委員

一年間ありがとうございました。うちの審議委員会の女性陣にくらべてそんなにヘビーリスナーではないのですが(一同笑)、いつもラジオがそばにあるということで、少しでも審議委員会のなかで意見を言ったり感じたことをいうことで、よりディウエイヴを身近に感じることができました。リスナーの方からいろんな意見が寄せられたりして、ディの中でも会議などをするのでしようが、一方で審議委員会で出された意見だとか、少しでもお役に立てたのかなと思っています。これからも応援しています、がんばってください。

一連絡の行き違いで、遅れて岩崎委員が参加。

深田委員長

岩崎委員に一年間の感想をお願いします。

岩崎委員

こういうのをやったらいいのではないかということ、悪いところを含めていろいろと申し上げましたが、更なる発展というか、いい番組を作っただけならという思いで、意見を言わせていただきました。あと、(育児休暇などで)経験を積んだ先輩がいなくなったときのフォローとか、今いろいろ苦勞しているかとは思いますが、いなくて清々するぐらいのことで(一同笑)、更になんかがんばってくれたらいいなと思います。

深田委員長

スケジュールの調整で、出席できなかった回があり、申し訳ないと思います。そして皆さん、この審議委員ってすごく責任が重いですよ。名前が硬いですもん。「審議会の委員に選ばれました」と。(一同笑)それで2ヶ月に一回ということで、みんな緊張しながら来て、何を言おうかと、一生懸命考えていらっやっています。中村委員の「切り込み隊長」ではないですが、中村委員が発言してくださるとなんかしゃべりやすくて、話をふった記憶がありますが、助かりました、ありがとうございます。

先ほど重田委員が言った、「メディアはエネルギー」っていう言葉、すごい素敵だなと思って控えさせてもらい

ましたが、皆さんにエネルギーを与える存在であってほしいし、今後もあり続けてほしいと思いました。ディの皆さんに、ぜひ、僕自身、商売をしているものから思うのですが、「商いは飽きない」ということで、同じ業務を続けると、初心的な緊張感が薄れてきて、結構私自身も失敗したりミスをしたりということがあります。ぜひ多くの方々が聞いているところですから、がんばって、設立した当初の、代表はその思いをずっともち続けているとは思いますが、それを引き継いで、ぜひ引っ張っていただけたらと思います。そして、今回審議委員としてやりましたけれども、ぜひ、そのとき出たことが、こういうふうになりましたと、フィードバック、うまく活用した、というのが、後でいいので聞こえるようになると、一年間やった甲斐があるのではないかと思うので、ご検討いただけたらと思います。ありがとうございました。

一放送局 麓

25年度の番組審議委員、最後までありがとうございました。一旦、今回で終了ということになりますけれども、以後うちの放送を聞いていただいて、気づいた点や、ご提案などありましたら、いつでもメールでも電話でも入れていただけたらと思います。自分達も、昨年の復帰60周年という大きなテーマを終えることができましたので、今後、また次世代に向けて、島の先人達の行ってきた価値観だったり生み出してきたものの、素晴らしさを次世代に繋いでいけるように、メディアとして、あ、「メディア(media)」は「ミディアム(medium)」からきているそうです。そこを繋げられるように、あいだを取り持てるようにパイプを繋いでいきたいと思いますので、今後とも、ご協力を宜しくお願い致します。ありがたさまりょうた。

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ① 自社放送:平成 26 年 3 月 29 日(土曜日)6:00～放送
- ② 書面の備置き:平成 26 年 3 月 29 日(土曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を当法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応
- ③ インターネット:平成 26 年 3 月 29 日(土曜日)より当法人インターネットのホームページに転載

9 その他の参考事項 なし